

第17回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブルを開催しました

開催日時：2018年8月9日(木) 19:00～20:30

開催場所：此花区民ホール 第1会議室

湿度が高く、ムシムシ・べたべたする中の開催となりました「～未来このはな～ 二代目ラウンドテーブル」、このラウンドテーブルは、生活の中で「してみたいこと」をテーマに自由にアイデアや意見を出し合う場です。年齢や性別、肩書は一切関係なしに、此花をよりよくするために何か話そう。何か話そう。という構想で行っています。参加のルールは簡単で、①お互いの話に乗っかって盛り上げましょう、②異なるご意見も尊重しましょう、③多少の脱線も容認しましょう、となります。

毎月第2木曜日に此花区民ホールにて定期開催する予定です。今回は、9月13日(木) 19:00より、区民ホール第1会議室にて開催予定です。参加は事前予約なしの自由参加です。お仕事の都合等での途中参加も歓迎いたします。お時間の許す方は、一度覗いてみてください。

今回は7名の皆様がお集まりくださいました。複数回参加の方々に加え、今回初参戦の方も交え話を繋ぐことになりました。話題は、今が盛りの「夏祭り・盆踊り」にまつわる話から新築マンション、外国人労働の話などへ広がることになりました。以下に皆様からのお話の一部を要約・抜粋いたします。



○夏祭り・盆踊り、盛況に行われているようです。

「8月も中旬に差し掛かり夏祭りも一通り終わって、今は盆踊りの真っ盛りという感じでしょうか。毎週地域のどこかで賑わっている印象です。」

「区内の盆踊りは、日程が被って踊り手さんが少なくならないように連合長会で調整されています。また近隣の花火大会などの大きなイベントも避けるようにしています。その兼ね合いでお盆の前に盆踊り大会をやってしまうことも珍しくありません。」

「最近子供さんが盆踊り会場に来ても踊ってくれないことがあって、そこで今回は盆踊りの本番が始まる30分くらい前に『練習会』みたいな形で、そこに参加してくれたら抽選券をプレゼントする企画を実施しました。これはうまくいったと思います。子供たちも踊りを知らないから参加するのが恥ずかしいところがある様で、2曲程度でも事前に教えてあげると踊ってくれるようになりますね。教えることが大事だと思います。」

「みんなで参加するから楽しいこともあるでしょう。一人二人では気後れして入りにくいですが、こちらでサクラを用意し抽選券で引き込んでやると結構皆さん馴染んでくれています。」

「各地区の日程が被らないので自分の住んでいる地区の盆踊りだけでなく、毎週のように子供を連れて盆踊り巡りを楽しんでいる方もおられるようです。」

「地域の盆踊りは売店なども地元の方が出店しますので、食べ物なんかとにかく『安い』です。それを目当てで盆踊り会場に晩飯済ませにこられる方もいるそうです。本職の露天商泣かせです。缶酎ハイとつまみのセットを『水代も出ない』程度で販売していた団体さんもありました。」

「各地区を巡っている踊り子さんに話を聞くと、盛り上がり方やイベント内容など、それぞれ特色があるそうです。主催するのも地区であったり、商店会であったりとか。」

『河内音頭』は地区によって踊りが異なるようです。先日河内音頭の踊り手さんと同じイベントに参加することがあって、その方に踊りを教えてもらったのですが、内心『河内音頭くらい踊れるかな』と思っていたら自分が知っている踊りと全然違っていました。平野から来られた方も『平野の踊りとは

全然違う』と驚いていました。」

「此花の夏祭りでは伝法が一番大きいですかね。ここは2つの神社が一緒にやりますので。ふとん太鼓や獅子舞があったりして、各町会がいろんなものを持っていてそれぞれが街を練り歩きますので盛り上がります。」

「此花はそうではありませんが、祭りが大きくなり過ぎると祭りの『形』が変わってきて問題になることがあります。有名な祭りになると、祭りの担い手が他所から入ってきてお客も他所の方ばかり。地元不在で負担だけが増えて、実際にもう嫌だという声を聴きます。」

「実際に祭りに関わると寄合が多くて家を空けることが多くなりがちです。『新婚さんが寄合続きで家に居着かず離婚した』などという話が囁かれることもあります。年配の女性からは『祭りをやっている男にロクな奴はいない』などと言われることもあります。」

「昔は『伝法の祭りがあると四貫島の商店街が潤う』などと言われていました。皆さん気前よく散財されていたようです。最近は世代も入れ替わってきて祭りの寄付もされない方が増えているようです。歳をとったら災害なんかが起こった際には、祭りの担い手さん達の世代にお世話になることもあるでしょうから、『その時はよろしくお祈りします』の気持ちで寄付してやったらいいのにとおもいます。」

「土地によっては、学校が祭りの参加を体育の授業として扱っているところもありました。子供たちは出席がかかっていますので大変でしょうが、子供がたくさん参加して賑わいがありますのでいいことだと思います。」

○『新しい人達』といえば新築マンションですが・・・

「区内にも大規模な集合住宅が出来て新しい人達がたくさん入ってきました。人が増えることはいいことだと思います。祭りはどうしても地元で長く住んでいる『古い人達』が中心になっていますから、新しい人達と古い人達がうまく混ざると活性化するかもしれません。」

「近所の工場がなくなって今は更地になっているのですが、今度新しくマンションができるそうです。結構広い敷地で10階建てになるそうですが、賃貸のワンルームとのことでした。どうせなら世帯用のマンションだったら良かったのと思います。」

「ワンルームの住人は入れ替わりが頻繁で地域との交流は疎遠になりがちです。またワンルームの部屋が、最近増えてきている民泊に利用される可能性があります。いずれにしろ地域の環境への影響が心配されます。」

「町会経由で業者に申し入れたら、近隣住民への説明会など開いてもらうことが出来るかもしれません。『建設反対』などと拳を振り上げる訳ではなく、ごみの管理や駐輪場、民泊問題など懸念事項を事前に話をするだけでも効果があると思います。」

「民泊は新築物件だけでなく、中古のマンションや一軒家などでも実際に増えています。それでも街に人が増えることはいいことだと思います。ただ、ガラの悪い人が増えないことを祈るばかりです。」

「うちの隣も民泊を始めるとのことです。現在リフォームを進めている最中です。どんな感じになるのかワクワクする部分もありますが、心配事もあります。近所の交番に相談したこともあります。」

「民泊は観光の方でしょうが、実際に住んでいる外国人の方も此花は多いと思います。飲食店に入ると外国人のスタッフばかりの時間帯があります。日本語学校の学生さんでしょうか。また、技術研修生の形で日本に来ている外国人の方も多いと聞きます。」

「高齢者福祉の現場で、日本人と結婚された外国の方に相談支援の仕事を手伝ってもらったことがあります。高齢者福祉の現場は離職率も高く慢性的な人手不足ですので、ヘルパーの仕事を今後外国の方に担ってもらおうという機運は強くなると思います。」

「福祉の現場に外国の方に入ってもらうには受け入れる側の準備が大切だと思います。働きに来られる方は総じて意欲も高く、看護師の資格を持って来られるなど能力も高い方もおられます。それが現場スタッフとのいざこざで辞めてしまうことがあると聞きます。言葉も文化も違う中で働きに来られた方が定着しないのは双方にとって残念なことです。上の立場の人がうまくまとめていくことが大切だと思います。」

「民泊を利用される方は日本に遊びに来られている『観光客』で、働きに来られている方は生活もある意味真剣さがありますので、私たちの接し方・付き合い方も違ってくるのかもしれません。」

「盆踊りを見に来てくれていた外国の方も多かったです。この辺りに住まわれているのでしょうか、よく見る方たちも数名おられました。イスラムのヒジャブを被った女性も数名来られていました。」

「外国の方が増えたので、盆踊りも国際色を出したら面白いと思います。例えばイスラムの音楽を流して踊りを披露したり、『ハラール料理』の屋台を出したりしたらどうでしょうか。」

「宗教的なものは、こちらに悪意がなくても知らずに相手を不快にさせてしまうことがあるので注意が必要です。『ハラル料理』についても、日本人が思うような『豚肉を使わなければいい』というものではありませんので、お祭りで扱うにはちょっと危険ですね。イスラムの方のために、お好み焼屋で『豚玉』と『海鮮焼き』を別に焼いてあげればいいのかというものではありません。」

「此花は大阪市内では結構便利なところに位置しています。仕事で車を使うことが多いですが東西南北どこに行くのも楽です。昔のように43号線が大渋滞することもなくなりました。阪神なんば線もつながりましたし、交通の便はとても良くなりました。なぜか『地下鉄』だけがないのが残念です。大阪市の地下鉄は此花区にはありません。」

『実は便利な此花』が最近知れるようになって、民泊業者などが入ってきているのだと思います。不動産屋さんから『空き家はないか』という話がたくさん来ます。」

「少し前までは此花も結構廃れたイメージがありました。お年寄りの街という感じでした。そこにお洒落なマンションなどが建って、なんとなく『怪しくなってきた』感じでした。」

「不動産屋さんの言葉を借りれば、お年寄りばかりの街に若いアーティストなどが入ってきて、その後外国人が入ってきて『住民の層』が何層にも重なり合っているようです。ことあとIRが来ればまた新しい層が来るでしょうから、うまくいけば面白くなってくると思います。」

「盆踊りのときに『ラップ』していましたが、あの評価はどうだったのでしょうか。純粋に『盆踊り』を楽しもうと来場した方には、微妙な空気があったと感じました。」

「盆踊りだけでは人が集まらないので何か違ったことをやってみよう、という意図は買いたいと思います。新しく重なる『住民の層』に地域の祭りも適応しているということだと思います。」

「新しいものを『ウェルカム』とする土地柄になっていくべきなのか、ちょっと待ってよとするのか分岐点にいるのだと思います。」

「新しいものを受け入れるべきである、という風潮もどうかと思います。ちょっと違うよね、という感覚も大切ですし、その中で折り合いをつけることが大事だと思います。」

「此花区の方針をどこかで決めて、それに皆が従う類のものではありませんから、地域の方たちが自然に流れを作っていくものだと思います。混ざるものは混ざるし混ざらないものは混ざりませんから。地域によって特色が出てきて棲み分けができるようになれば理想的だと思います。」

盆踊りの話で始まり、盆踊りの話で締めとなりました。来年は「ラップ」に替わる新しいエンターテインメントが披露されるであろうことを祈念しつつ、お開きとなりました。

以上です。

次回は、9月13日(木) 19:00より、此花区民ホール第1会議室にて開催予定です。
皆様のご参加をお待ちしております。